

## 児童生徒支援部の実践

部員 山村八美 森脇達也 木原栄彦 嘉儀純哉  
青木寿夫 福井千鶴子 佐々尚子

### 1 研究目標

一人一人が基本的な生活習慣を身につけ、お互いに思いやり高め合う心豊かな生徒の育成

### 2 研究内容と実践例（研究内容 より）

#### （１）年間計画

月	内 容
4	・学級生活への導入、仲間づくり（学活） ・生徒理解職員会 ・生徒指導部会（毎週1回） ・進路保障連絡協議会（毎週水曜日） ・地域安全推進委員会（毎月1回） ・授業規律の徹底（通年） ・生徒支援室の運営（通年）
5	・教育相談体制の整備 ・生徒理解職員会 ・SC相談活動開始 ・仲間づくり
6	・自己理解、望ましい人間関係（学活）
7	・1学期の反省、夏休みの生活（学活） ・養護教諭、保健委員会と連携し基本的な生活習慣についてのアンケート実施
10	・七尾苑・保育園訪問（総合） ・三校親子ふれあい体験活動
11	・就学指導委員会
12	・人権・同和教育講演会 ・2学期の反省、冬休みの生活（学活）
2	・進学説明会、小中連絡会
3	・一日入学 ・3学期の反省、春休みの生活（学活）

#### \* 小中連携事業計画

昨年度までの行事を継続

交流学习、進学説明会、小中連絡会、一日入学、三校親子ふれあい体験活動等  
教育相談・・・一学期実施 夏休みの研修会で情報交換

基本的な生活習慣

何を大切にしていけるか、気軽に話せる機会をもつ

### 3 これまでの成果と課題

#### (1) 基本的な生活習慣について

詳細は別紙。(養護教諭担当ページ参照)

#### (2) 教育相談について

学力調査の結果が返ってくるので、それとあわせて相談の機会をもつ。3年生は三者面談、1, 2年生は放課後を使うなどして実施した。その結果、普段あまり関わりのない生徒とも話す機会ができ、その後何かあったときにも気軽に相談できる関係ができたように思う。来年度も引き続き実施していきたい。

#### (3) 三校親子ふれあい体験活動について

詳細は別紙。(養護教諭担当ページ参照)

#### (4) 人権・同和教育講演会

目的：講演会を通して言葉の重みについて考えるとともに、日常生活での言葉の使い方を振り返り、以後の生活の中で改善していこうとする態度を育てる。

講師：桂枝女太(落語家)

講演会の前に、全クラスで道徳の時間を使って言葉についての学習を行ったので、講演会の内容にもスムーズに入っていくことができたように思う。また、保護者にも講演会への参加を呼びかけた。次は、講演会後の生徒と保護者の感想である。

今日、桂枝女太さんに話をさせていただいて、言葉の重みが分かったような気がしました。テレビやラジオでは、放送禁止用語があるほど、言葉は大切なんだなと思いました。自分は日頃の生活でテレビでは放送禁止になっている言葉を平気で友達や家族などに使っていたと思います。その時は自分で気づかなくても、相手はとても傷ついていると思います。何気なく使っている言葉にもそういう言葉はたくさんあると思いました。今日話していただいたことをもう一度自分で考えて、日頃の生活を見直していきたいと思います。

今日お話していただいて、自分を少しずつでも変えていければ良いなあと思います。今日は自分のためになる講演会だったと思いました。(2年女子)

初めて生で落語を聞いた。テレビでも見たことないのに、いきなり生で聞けて、とても貴重な体験をしたと思う。

僕は今まで、差別をするようなことはしないで生きてきたつもりだったけど、講演を聞いて、ほんのささいな言葉でも差別につながるのかわかり、もっと気をつけていこうと思った。日頃から気をつけておけば、いざというときにしっかり対応できると思う。

今まで差別や人権のことでいろんなことを学んできたけど、また今日改めて差別をしないことや人権を尊重することの大切さを学んだ。(2年男子)

とてもわかりやすいお話でした。

知って使わない、とても大切なことですね。弟妹にきちんと説明できるといいなあと思います。確かに私たちが子供の頃には、普通に使われていた言葉を耳にしなくなりました。しかし、あばあちゃんたちの会話には出ることは度々です。そこまでは止められないですね。こんな時、子供たちにきちんと説明できるようになりたいです。「のくせに、なんか、」何気なく使っていました。今後気を付けたいですね。

もっと多くの方に聞いてほしかったですね。保護者の参加が少なかったのが残念です。(保護者)

生徒に身近な言葉についての学習をすることにより、生徒は普段の自分の言葉遣いについて振り返ることができ、その後の生活へ生かしていこうという意識付けができたように思う。また、全校一斉に取り組むことにより、職員も意識して生徒へ指導することができた。来年度も引き続き、このような機会を持ちたい。生徒の心情を豊かにしていくためには、できれば回数も増やし様々な角度から学習できる場をもてるようにしたい。